

茨城沿岸海岸保全基本計画改訂検討委員会（第1回）での主な意見

- 沿岸部は河川や道路その他背後地とつながっている。海岸堤防を上げることの影響をよく考慮して、インフラ整備の段階で支障が出ないように、各計画との整合は早めに取り組んでいただきたい。
- 気候変動による海面上昇量について、茨城沿岸でその上昇が確認できていれば数値を示していただきたい。
- 気候変動への対応としては、将来予測に不確実性があることを踏まえ、海面水位の上昇や砂浜の変化等についてしっかりとモニタリングして状況を確認しながら、状況に応じて順応的に軌道修正しながら対策を講じていくことが望ましい。
- 段階的整備に関しては、先行して整備したほうがトータルとして整備費を抑えられることもあり得るので、効率性などを模索しながら検討することも重要と考える。
- まちづくり等を踏まえた海岸の防護ラインの調整についても、今後の課題のひとつにあげられると思う。
- 能登半島地震及び能登豪雨災害からの学びを反映すべき。河川と海岸線を別物として捉えないことが重要。被害を出す前に起きることをあらゆる角度から考え、対策しなければならない。河川との関係について、5章（これからの海岸づくりに向けた重要事項）で触れてほしい。
- 図に示すときには、生じる事象のメカニズムに誤解が生じないように伝わるよう注意すべき。例として、侵食については、侵食が進行して地盤線が全体的に低下して全体的な防災力が低下したところへ気候変動による強大化した波が来襲するといったメカニズムがある。
- 発災後に移住など個人の選択肢を与える施策も考えてほしい。土地利用の規制を連動してやってほしい。首長の判断、地域住民の合意を取ってできることもある。このところの議論も深めていきたい。
- 海岸の問題は人為的な要因もあるので、気候変動に議論が偏りすぎることなく、それぞれの要因による影響を見極めておくことが大事。
- 安全を守るためにということは大事なことであるのは理解するが、海沿いの旅館は景観を売りにしているところも多く、護岸・堤防整備ありきで進めると、景観、観光への配慮ができなくなることもある。堤防を上げて海が見えなくなると、商売の観点からのデメリットは大きい。この点を十分配慮していただきたい。